TOPICS

動物衛生シンポジウム「技術が開く家畜疾病防除対策の新展開」

平成18年12月14日（木）、つくば国際会議場（エポカルつくば）において、動物衛生シンポジウム「技術が開く家畜疾病防除対策の新展開」が（独）農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）生物系特定産業技術研究支援センター（生研センター）の主催、動物衛生研究所の後援で開催された。

このシンポジウムは畜産先端研究開発支援事業の一環として行われたもので、人獣共通感染症や治療の難しい疾病による経済的損失、多量の抗生物質や飼料汚染有害物質による生産物の安全性の侵害などの畜産現場で生じている課題を解決するため、ドラッグデリバリーシステムやバイタルセンシング技術などの新しい技術を獣医領域へ応用する可能性を探ることを目的として企画された。

プログラムは次の通りであった。

1. 開会の挨拶
   小川　奎（（独）農研機構理事）
   座長　犬丸茂樹（動衛研）
2. 新しい技術を用いた家畜疾病対策の現状と期待
   犬丸茂樹（動衛研次世代製剤開発チーム）
3. リポソーム型経粘膜ワクチンの開発とその応用
   渡来　仁（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科）
4. アクティブ・ターゲティングＤＤＳナノ粒子の開発
   山嵜　登（（独）産業技術総合研究所ナノテクノロジー研究部門）
5. 生体信号モニタリングとゆらぎ解析～歩行リズムから「健康」を見つめ直す
   米山　満（（株）三菱化学科学技術研究センター）
6. マイクロ電気泳動チップによるストレス迅速アッセイ法の開発
   田中喜秀（（独）産業技術総合研究所ヒューマンストレスシグナル研究センター）
7. 総合討論
8. 閉会の挨拶
   谷口稔明（動衛研所長）

当日は、動物薬品メーカー、大学、動衛研をはじめとする独法研究所の研究者など約70名が来場された。講師の先生方の講演はどれも刺激的で、今後の研究に新しい可能性を見いだした参加者も多かったと思う。また、総合討論では、我々が新しい技術に取り組んでいくにあたって、各先生方の経験に根ざした示唆に富む発言を頂いた。

出席した多くの方々から興味深いシンポジウムだったとの意見が寄せられ、参加者ばかりでなく企画者のひとりとしても大変満足の行くシンポジウムとなった。ご協力を頂いた関係者各位に心から感謝を申し上げる。

（次世代製剤開発チーム長　犬丸　茂樹）